令和元年度　　唐津市立鏡山小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
自ら考え行動し　いきいきと学ぶ児童の育成	Ⅰ　学力向上の推進（知） Ⅱ　心を耕す教育の推進（徳） Ⅲ　健康安全教育の推進（体）
3　前年度の成果と課題	**4　今年度の重点取組**
前年度，危機管理体制の整備として，原子力防災に係る保護者引き渡し訓練を実施することができた。また，危険個所に飛び出しキッズを設置したり，交通指導に毎朝立つ場所を増やしたりと事故防止に努めることができた。課題として，人権同和教育推進のために校内体制を整えたり，児童・保護者・職員の人権意識を高めたりする取組が必要である。	○楽しい授業 ○あいさつ日本一 ○自問清掃

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

●は共通評価項目、○は独自評価項目

5　目標・評価

①学力向上の推進（知）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・「鏡ん話」を教材とした郷土学習に取り組む。	・郷土について学ぶ体験活動等をカリキュラムの中に位置づけ、系統を明らかにする。	B	・低学年のまち探検、3年生の社会科、4年生の総合的な学習の時間で地域の学習を行った。 ・郷土について学ぶ体験活動としてカリキュラムに位置づけ、系統を意識できるようにしていく必要がある。	・高学年における郷土について学ぶ体験活動の位置付けをカリキュラムに明記する。 ・担当学年で教材開発を行う。そのためにも、地域の方から情報を収集していく。
	●学力の向上	・学習内容の定着	・児童の知識、技能の定着と思考力の向上を図り、12月調査の結果が県平均正答率を上回ることを目指す。	・1単位時間の学習過程の授業スタイルを確立して全校で共有化する。 ・知識の獲得ができるような掲示物等の工夫を行う。 ・家庭学習の充実を図るために、「家庭学習の手引き」を配布し、PTAと連携しながら啓発していく。	B	・「学校の勉強がよくわかるか」の問いに対し、90%の児童が「わかる」「だいたいわかる」と答えている。また、保護者も80%が「我が子は勉強がわかる・楽しいと実感できている」と答えている。 ・家庭学習については、50%近くの保護者が「我が子は家庭学習をよくしている」とは「思わない」「あまり思わない」と答えている。啓発が必要である。	・学力向上アクションプラン、学力向上対策評価について研修の時間を増やす。 ・家庭学習の手引きを4月に配布する。 ・家庭学習に関する通信等を配布し、啓発を図る。
		・学習規律の確立	「時間を守る」 「話を聞く」 「宿題に取り組む」 ・上記3点を児童に意識させ、達成率85%以上を目指す。	・「鏡山小　学習のきまり」をつくり、ルールの確立を図る。	B	・「時間を守る」「話を聞く」「宿題に取り組む」が守れている・だいたい守れていると答えた児童が90%前後である反面、保護者は50～70%という結果であった。教師が指導するにあたって目指す児童の姿（指針）が必要である。	・「時間を守る」「話を聞く」「宿題に取り組む」の3点について、どのような姿を目指すのかを4月段階で整理する。

②心を耕す教育の推進（徳）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・人権意識をもった児童の育成	・学期に1回、低中高学年別の人権教室を実施する。 ・特別の教科「道徳」の充実を図る。	・人権教室や道徳の内容や児童の変容を学校だよりや学年通信で家庭に発信する。	A	・毎学期、人権集会を実施することで児童の人権意識を高め、お互いを思いやる心を育てることができた。通信で知らせたり、感想を校内に掲示したりして保護者への啓発もできた。 ・言葉遣い等改善すべき点があるので、繰り返して人権教育や道徳に力を入れなければならない。	・各教科、道徳、総合的な学習の時間等すべての学校生活の中で子どもたちの言葉遣いや人間関係づくり等その都度機会を逃さずに、人権教育をしていく。 ・児童一人一人の自己肯定感を高める手立てをとっていく。
	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない集団づくり ・いじめの早期発見・早期解決	・学級が楽しいと感じる児童を90%以上にする。 ・Q－Uにおける学校生活満足群を前年度よりも増やす。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。	B	・児童へのアンケートの結果「学校が楽しい」「だいたい楽しい」と感じる児童は約86%で、14%は学校生活にあまり満足していないことが分かった。お互いを認め合い、自己肯定感が高まるような支援・手立てが必要である。 ・集団作りのための実践をと問う職員へのアンケートの結果、「できた」「だいたいできた」と答えた職員は約60%で、40%は取り組んでもあまり効果がみられなかったことが分かった。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを効果的に取り入れて、集団作りや授業の研修を継続して行い、教師各々が意識を高くもって、日々実践していくようにすることで、いじめを許さない集団へと高めていく。
	○予防的、開発的指導	・基本的生活習慣の実態把握と改善指導	生活目標のうち「あいさつ」「時間」「自問清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生徒指導協議会で児童の実態を把握し、問題行動には全職員が共通理解をもって早期対応する。	B	・「あいさつ」については、86%の児童が「できている」と答えた。委員会等での取り組みで児童の意識の向上は見られるが、定着には至っていない。 ・「時間」を意識させるチャイム席は「立腰」と抱き合わせで日々指導を進め、浸透しつつある。 ・「自問清掃」については、「がまん玉」磨きの意識は高まったものの徹底には至っていない。	・「あいさつ」や「自問清掃」等基本となる生活指導については生活指導協議会で常に情報を共有し、学年を中心に具体的な取組目標を設定する。 ・日々の細かい指導については学年で共通理解をし、指導を重ねることで定着を図る。
	○特別支援教育の充実	・特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・困り感のある児童に対する関係者の理解をすすめ、適切な支援及びその体制を整える。	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援部より年6回程度発行し理解を図る。 ・児童理解研修会等を年3回実施する。	B	・週に1回、生活支援委員情報交換会を実施したことで、全校児童の様子を把握することができた。支援の方法も検討することができた。 ・学級担任と各学年コーディネーターとの情報交換は学年の差があり、課題が残った。 ・子育てについての悩みに応えられるような通信にしていこうと部内で内容を検討できた。 ・児童理解研修会は実施できたが、情報を共有する程度であった。しかし、週1の「こどもタイム」が有効に活用できた。	・各学年コーディネーターが学級担任に声をかけ、情報交換し、個に応じた支援につながるような「こどもタイム」を行いたい。 ・通信は保護者のアンケートをもとにさらに内容を充実させたい。 ・ハイリーセンシティブチャイルド（HSC）の理解や対応をはじめ、色々な特性を共通理解できるような研修会を長期休業中に仕組み、充実させたい。

③健康安全教育の推進（体）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体力つくり	・食育の充実 ・健康教育の充実	・朝食の摂取率が前年度を上回る。 ・限られたスペースで体力づくりができる縄跳び等を推奨する。	・学年に応じた食に関する指導を充実させる。 ・家庭との連携の中で、「おにぎり弁当」を実施する。 ・運動場の使用が制限されることに伴い、外遊びの工夫を啓発する。	B	・アンケートの結果「早寝・早起き・朝ごはん」ができている家庭が80%以上と高く、学年に応じた食の指導ができている。 ・体育館使用の割り当てを増やしたり、鏡中の運動場を使用したりすることで、児童が活動する機会を増やすことができた。 ・限られたスペースで体力づくりをするのは工夫が必要である。	・養護教諭、食育担当を通信に、健康教育・食育に努めていく。今後も学校と家庭が連携し、指導を続けていく。 ・体育館使用の割り当てや鏡中の運動場使用を続けていく。 ・外のスペースが限られているので、仮校舎の空き教室等でできる活動を考えていく。
学校運営	○危機管理体制の整備	・児童・職員の危機管理意識の向上	・校内外での交通，生活事故を前年度よりも減少させる。	・危機管理研修や安全訓練を通し、避難計画を見直したり安全配慮意識を向上させたりする。 ・交通事故が多発する箇所については、下校指導や交通安全教室において児童に指導するとともに保護者への呼び掛けを行う。	B	・75%の保護者が「わが家は，事故や災害から自分の身を守れるように話をしている」と回答している。 ・約86%の児童が，「安全に気を付けて生活ができている」と回答している。	・来年度，仮校舎に移動することで，避難訓練の在り方も工夫しなければならない。職員の共通理解は不可欠であるため，生活指導部を中心に避難訓練や各種安全教育の計画を検討していく必要があると考える。 ・保護者への啓発も行い、家庭内で危機管理について話題にしてもらう必要がある。 ・児童に対しては，仮校舎に移り，環境が変わるため，怪我や事故の予想を立てて，生活指導部を中心に指導をしていく。

☆幼保小中の連携　☆地域・保護者連携の強化と開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	地域・保護者連携の強化	・家庭教育力の向上	・宿題の提出率を前年度より上げる。 ・「家庭の日」実施率60%以上を目指す。	・毎月１日を「家庭の日」とし、1時間テレビ、ゲーム、スマホ等を消し、家庭団らんの日を設けるなど、学校と家庭が連携をして教育活動に取り組んでいく。	B	・約88%の児童が「宿題をできている」「だいたいできている」と回答している。 ・今年度スタートした毎月１日の「家庭の日」であるが、11月の実施調査を見ると、65%の実施率であった。	・今年度スタートした毎月１日の「家庭の日」であるが，まだまだ浸透していない。PTA執行部との結果を共有し，対策を考えたい。また，その結果を受けて，学校全体で取組強化をしたい。
		・開かれた学校づくり	・保護者の本校の重点目標周知を80%以上にする。 ・地域の行事に参加する児童を前年度より増やす。	・「人材活用表」を更新し、学校行事や各学年の学習指導などに積極的に生かしていく。 ・PTA活動のよさを学校新聞やPTA総会、ホームページ等を通じて発信する。 ・地域行事をホームページや懇談会などで紹介し、児童と保護者に参加を呼び掛ける。	A	・地域の会議（民生員会、運営審議会等）にて「地域のボランティア大募集」を啓発した。12月より昼休みに各種団体のボランティアによるイベントが実現している。 ・80%以上の保護者が「昨年度に比べ，鏡山小からの情報（各種通信，はなまるメール，ホームページ等）をキャッチしている」と回答している。 ・地域行事の案内は積極的に家庭に届けることができた。	・学校の情報を広く地域に発信し、連携を推進していく。 ・今後も，新しいHPシステムで学校の情報を発信していく。 ・授業参観や親子レクへの参加率は高い。PTA総会や教育講演会，懇談会への参加に結び付けられるように日程等を工夫する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務効率化の推進	・時間外勤務時間が一月あたり40時間以内の職員数を80%以上にする。	・会議１時間以内を実行する。 ・学校行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど全職員で考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。	B	・会議の時間の短縮を試みたが、1時間以内を達成することが難しかった。 ・夏季休業中に、全職員による「本校の課題の洗い出し」を行い、児童育成のために必要なことを明らかにした。新たな取組が増えた分、削減すべきものを考える必要がある。 ・業務記録表によると、職員によっては毎月60時間以上の超過勤務が続いている。	・学年や部会でできるだけ業務の分担をする必要がある。 ・週に1回の「ノー残業デー」を設定し，全職員で守るなどの取組が必要である。
		・教職員の連携促進	・学年グループや部会組織での協働意識を高め、学校課題や取組の共通理解ができるようにする。	・級外を含む学年経営を充実させる。 ・大規模校を効率的に運営していくための学年主任の役割は大きいことから、空き時間の確保とともに学年主任会を月に1回開催する。	B	・大規模校の効率的な運営に必要な運営委員会は、計画通り実施することができたが、クラブ活動の時間を活用した学年主任会を開催することは、難しかった。	・人数の多い中での職員会議では、職員の意見が反映しづらいことから、会議の在り方を大幅に見直す。具体的には、学年主任や部長を中心とした学年会・5部会で意見を吸い上げ、運営委員会を協議の場としたい。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組
・本年度は，評価項目に「志を高める教育」の推進項目が入り，郷土について学ぶ体験活動等をカリキュラムの中に位置づけるまでに至らなかった。次年度は、各学年で行っている郷土学習の系統を明らかにしていきたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」に関しては、組織全体で業務を見直し、分業することで一人一人の負担減を図っていきたい。